

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数1件のみです。（前月比-、前年比0.1）と昨年5月からは、月に1件か2件の報告が続いていますが、4月は阿蘇からの80歳以上の1例のみです。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数2,202件（前月比1.27、前年比1.64）で3月からは増加しています。増加した主な要因は、RSウイルス感染症で、前年同月比53.7、前月比1.3でいつもと違う時期の流行で年当初より急激に増加しています。一方他の疾患では例年と比べて大きな動きはありませんでした。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 1,128件の報告です。前月比1.3、前年同月比53.7です。昨年（令和2年）は年間を通してほとんど流行がありませんでした。今回は一昨年（令和元年）の9月をピークとした流行以来の大きな動きです。1～2歳児を中心としています。3歳以下では3桁の報告です。4歳・5歳で二桁、6歳以上でも一桁の報告がありました。八代（定点あたり48.75、195件）がもっとも多く、菊池（同41.0、205件）、有明（同30.0、150件）、宇城（同27.0、108件）と続いています。山鹿（同5.5、11件）、天草（同4.5、18件）、人吉（同4.0、12件）には少ないようです。阿蘇を除き県下から報告があります。施設間の発生状況の差がないか（施設内発生の動向）、また家族内でも年少児が診断がついたので遡って年長児の診断がついた例はあるのか（家族内発生の動向）に注目し報告をお願いできればと考えます。あるいは傾向がなく地域全体で（県全体で）流行しているのか、実態の把握ができればと考えます。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数59件（前月比1.3、前年比0.7）と、今年に入ってから報告数は、50件前後で4月にやや増加していますが、いずれも例年よりは少ないようです。1歳が32件と報告の半数を占めています。他の年齢でも少数ですが年齢分布は幅広いようです。天草（定点あたり3.0、報告数12件）が目立っています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数106件（前月比1.2、前年比0.4）です。昨年（令和2年）5月以来報告数100件前後の報告が続いています。昨年春以降、高水準の報告はありません。3歳と5歳をピークとしてはいますが、0歳（6ヶ月以上）も含めて全ての年齢から報告があります。菊池（定点あたり5.0、25件）、熊本（同3.13、50件）、に多いようです。山鹿、阿蘇、水俣を除き、県下より報告があります。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数422件（前月比1.1、前年比1.0）と昨年とほぼ同様の動きです。全年齢層から報告があります。阿蘇からの報告がない以外多くの地区から二桁の報告があります。特に報告が多いのは有明（同16.0、80件）、菊池（定点あたり15.6、78件）、山鹿（同14.5、29件）です。
5. 水痘 : 報告数33件（前月比1.1、前年比0.5）です。2月から少しずつ増加してきています。0歳児で4件、1歳児で5件の報告があり、その後も2～4件の報告があります。菊池（定点あたり2.2、11件）、八代（定点あたり1.25、5件）、に多いようです。一方で山鹿・阿蘇・御船・水俣からの報告はありません。
6. 手足口病 : 報告数46件（前月比1.8、前年比0.7）と昨年に引き続き少ない報告が続いています。菊池（定点あたり2.80、14件）、御船（同1.33、4件）、熊本（同1.25、20件）が続きます。年齢は1歳から3歳を中心としています。
7. 伝染性紅斑 : 報告数9件（前月比1.5、前年比0.2）と、昨年6月から一桁の報告が続いています。

熊本から5件(定点あたり0.31)の報告で、1件の報告が、山鹿(同0.50)、菊池(同0.20)、八代(同0.25)、宇城(同0.25)からありました。1歳の3例がピークで6ヶ月以降3歳に1件ずつ報告があります。

8. 突発性発疹 : 報告数197件(前月比1.6、前年比1.1)と、増加傾向を含めて例年並みです。山鹿(定点あたり7.50、15件)、菊池(同6.20、31件)に多いようですが、阿蘇を除き県下から報告があります。6歳1例の報告がありました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数26件(前月比1.2、前年比4.3)とこの時期ではまだ増加していません。例年同様の推移と思われます。26件中22件は天草からの報告(定点あたり5.50)です。1歳を中心として幅広い年齢からの報告です。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数7件(前月比0.7、前年比0.5)と昨年からの低水準が続いています。報告があったのは、御船と有明から、各々2件報告があり、熊本、菊池、八代から1件の報告でした。7歳以上で5件の報告があります。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数28件(前月比1.6、前年同月比1.2)と微増しています。熊本23件、菊池2件、天草2件、八代1件の報告です。20~49歳にピークがあり、全体の約60%を占めています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数63件(前月比1.0、前年同月比1.3)で、前月比、前年同月とほぼ同数でした。男女別は、男性39件、女性24件と男性に多くみられました。年齢別では、男性は20代前半をピークに、10代後半~70歳と幅広く、女性も同様に20代前半をピークに10代後半~40代に集中していました。地区別は、熊本市が53件と圧倒的に多く、次いで御船が女性の6件、八代が男女1件ずつ、宇城と有明に男性各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数25件(前月比1.8、前年同月比0.9)でした。男女別は、男性14件、女性11件でした。年齢別では、20代から70代まで幅広く分布しており、男女とも20代後半が最も多く、それぞれ4件、3件でした。地区別は、熊本11件、すべて男性、菊池で女性のみ8件、八代も女性のみ2件、宇城が男性のみ3件と地域によって性差を認めました。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数は12件(前月比2.4、前年同月比1.2)でした。年齢別では、20代が5件と多く、30代男性が3件、女性が1件、40代男性が2件でした。地区別は、熊本が9件、次いで宇城が3件でした。
4. 淋菌感染症 : 報告数は24件(前月比2.4、前年同月比3.0)でした。男女別では、男性21件、女性3件で、年齢別では20代10件、30代で6件、40歳で4件でした。地区別は、熊本18件、内、女性1件、次いで御船2件は女性で、八代、宇城が男性各2件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :

報告数8件 (前月比 0.6、前年同月比 0.4) でした。4件 (50%) が70歳以上でした。乳幼児では1-4歳が1件です。人吉 (3件、定点あたり3.0) が多くなっています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :

報告数5件 (前月比 0.8、前年同月比 2.5) でした。人吉が2件と多くなっています。50-54歳が1件、70歳以上が1件、1-4歳が3件です。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :

報告数1件 (前月比 0.5、前年同月比 +0) で、阿蘇からの報告でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 : 報告数0件 (前月比 +0、前年同月比 +0) でした。

2. 無菌性髄膜炎 : 報告数2件 (前月比 +2、前年同月比 +2) でした。熊本より15-19歳、50-54歳で各1件です。

3. マイコプラズマ肺炎 : 報告数0件 (前月比 +0、前年同月比 -6) でした。

4. クラミジア肺炎 : 報告数0件 (前月比 +0、前年同月比 +0) でした。

5. 感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる) :

報告数0件 (前月比 +0、前年同月比 +0) でした。

届け出対象感染症

1類感染症 : 報告はありませんでした。

2類感染症 : 結核 17件

3類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1件

4類感染症 : レジオネラ症 2件

重症熱性血小板減少症候群 3件

日本紅斑熱 4件

5類感染症 : アメーバ赤痢 1件

カルバペネム耐性腸内細菌感染症 2件

侵襲性肺炎球菌感染症 3件

梅毒 12件

百日咳 6件

新型インフルエンザ等感染症

: 新型コロナウイルス感染症 782件